



NPO 法人流山市国際交流協会

NIFANEWS

発行: NPO 法人 流山市国際交流協会
〒270-0111 流山市江戸川台東 1-4 3F
国際理解サポートセンター内
☎: 04-7128-6007
Email: nifa-support@bz04.plala.or.jp
http://nifa-home.sakura.ne.jp/

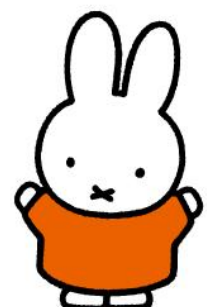
私たちの暮らしの中のオランダ

日本は江戸時代初期からオランダと交易関係を持ち、「蘭学」、「蘭方医学」を通して西洋文明を取り入れてきました。そして今も日々の暮らしにオランダから学ぶことがあるようです。

オランダは 働き方改革の 先進	1980 年代、オランダは経済の活性化、失業の改善を目指し、女性の社会進出を促す動きもあって、働き方の改革を進めました。男女雇用機会の均等、週3日、4日勤務、1日の短時間労働などを推し進め、制度を造り上げてきました。更に今では在宅勤務もかなり進んでいます。こうした働き方の基本は、子供、家族を大切にするという価値観に基づくもの。一方で生産性を維持向上させながら、「ワークライフバランス」を目指す取り組みです。実際には課題もあるでしょうし、日本とは社会福祉、税制なども違うため、単純に比較はできませんが、「少子高齢化」の進む日本にとり、「オランダモデル」は参考になりそうです。
学校、教育の 仕組みの違い は、子供にと って？	ニフユス・ヨスさんが「オランダ教室」で『オランダの小学校では宿題がありません。教科書も学校に置いておきます』と言うと、市内の6年生はみんな羨ましそうな歓声を上げます。授業は異年齢クラス、つまり年齢の異なる子供と一緒に授業を受けるような。国内にある 15 の大学に入試はなし、定員を超える場合には抽選とのこと。でもユニセフの調査では子供の幸せ度世界一、学力も世界のトップクラス。一体どうなっているんだろう？と教育制度に興味がかかります。いまだに詰め込み、受験中心の日本の教育と違いすぎます。
低地の国（ネ ダーランド） の防災に学ぶ	日本も近年、河川の洪水による甚大な被害を受けるようになりました。オランダはそもそも低地の国、海面以下の地域が多く、干拓による地盤沈下も続き、常に排水を行っています。1953 年には史上最大の台風に見舞われ、1千 8 百人以上の犠牲者と 20 万人以上の方が家屋損壊に遭いました。5年後には防災工事を始め、防潮堤防、水門・可動堰の建設を約 40 年かけて完成させました。気候変動による災害が増えつつある日本、オランダはどのように災害に備えているのか、市民レベルでも知りたいところです。



1. 面積: 約 4 万 2 千 m² (九州とほぼ同じ広さ)
2. 人口: 1,730 万人 (東京都と千葉県の人口の合計 1,900 万人より少ない)
3. 国旗: 上から赤、白、青の横三色旗。
フランス国旗は左から青、白、赤の縦じま。ロシアは白、青、赤の横三色旗
4. ミッフィー: オランダのグラフィックデザイナー、絵本作家ディック・ブルーノ制作によるキャラクター



オリンピックイヤーを異文化交流の機会に 「国際交流カフェトーク」の開催(2月16日 南流山センター)

今、流山市はオランダのホストタウンとして車イスバスケットチームの招致に向けた活動に拍車をかけています。その一端を担う活動として NIFA も市からこのイベントを委託されました。オランダのヨス・ニフュスさんの他、ジョエル・チャドレイさん(イギリス)、ロナ雨沼さん(フィリピン)、クマル・プラサドさん(ネパール)に講師をお願いしました。

第 1 部は「オランダ文化を知ろう」、ヨスさんに簡単なオランダ語の挨拶を教えてもらった他、地理、国造り(「神は生活を作りオランダ人は国を作った」)、産業、スポーツ、日本とのつながり(歴史、日本語になったオランダ語)、絵画、料理など広範囲にわたり紹介していただきました。参加の皆さんは、用意された「Ja」と「Nee」の札を持って質問に答えます。赤白青の三色の国旗当ては紛らわしく、「おてんば」や「ランドセル」の元がオランダ語であることに『へー』の声も上がりました。

第 2 部はグループごとに講師を交えてトークセッション。「困っている外国人がいた時どうする?」「外国人に流山を紹介するときどうする?」のテーマで参加の皆さんは意見交換。病気になった時、社会保険の制度、電車内での表示などが話題になり、お勧めの観光スポット以外に流山の魅力についても語られていたようです。

20 名ほどの方がオランダから取り寄せた“オランダワッフル”と“ビスケット”を食べながら賑やかに語り合いました。この機に異文化に関心を持ち、外国の方とも気軽に接し合える空気が広まるといいですね。講師の皆様ありがとうございました。

(23 日、同じプログラムで生涯学習センターにて開催)



ヨスさん 八木南小学校で交流 ～2月12日～

ニフュス・ヨスさんが 3 年生の国語の時間に招かれました。「読む」「書く」と同じように「聞く」「話す」も大切なテーマ、自分たちと異なる社会の人達とコミュニケーションをとることの大切さを、実践を通して学びます。この日生徒たちはグループに分かれ、中国、フランス、ブラジル、トルコの方とも交流の機会を持ちました。前もってその国の下しらべ、質問を用意、全員が Q&A を重ねながら内容を深めていきます。

6 人の生徒(同校は 3 年生全体で 30 数名)とヨスさんは膝つき合わせる距離で向き合い、お互いを身近に感じます。国の広さ、気候、食べ物、スポーツなどの他、学校の生活について沢山質問がありました。オランダでポケモンが人気という話には親近感を感じたよう。給食はなく、弁当持参か食べに帰る、始めの会、終わりの会もない、宿題もない、だからランドセルもない、部活もない、校歌もないという、日本とずいぶん違う学校生活には驚きと羨望?の声が上がりました。

僅か 30 分少々交流でしたが、生徒たちはヨスさんを通じてオランダを深く自分の中に刻み込んだのではないのでしょうか。まとめの発表が楽しみです。



ヨスさん 聖火ランナーに

NNIFA の会員ニフュス ヨスさんが東京オリンピックの聖火ランナーに選ばれました。

なんと 170 人以上の倍率の中からの推挙、流山市で唯一のランナーです。ヨスさんは 3 年にわたり、市内全小学校で「オランダ教室」の講師を務めてきました。また中学校、高校、市民向けにも講座を開いて両国の橋渡し役を努めてきました。

7 月 4 日(土)に東葛の街中を駆け抜けます。





NIFAの人 ^{たぐち}田口 ^{よしこ}佳子さん

(NIFAの法人会員 流山商工会議所 会頭・陶芸家)

Q. 田口様は昨年11月に会頭に就任されました。又陶芸家でもいらっしゃいます。自己紹介をお願いします。

A. 生まれは北九州市門司です。小学校3年まで過ごしました。元々教育熱心な土地柄、母も芸術家指向、沢山の本を読み、作文コンクールに作品を多く応募しました。そのうちに自分を表現することに興味が増してきました。その後父の転勤で神戸、大阪、東京で暮らしました。高校も転校しています。その間文章を書きつつも、自分を表現するための何かをずっと模索していました。学校を卒業し、結婚して間もなく夫の転勤でマレーシアのボルネオ島に5年半いました。赤道直下、外国なので今までと違う感覚を経験しました。それまで転々としたお陰で感受性が強まり、色々な感性が蓄積されてきました。

A. そのあと帰国し、子供も小さかったのですが創作への夢を捨てがたく、陶芸の門をたたきある先生に師事しました。それから修行を重ねましたが、5年ほど経って独立の思いが強く先生に願い出ました。しばらくして西深井の今の場所を紹介され窯を開きました。「紫焰窯」です。ここで教室を開き、注文を受け、個展を開く活動を重ねているうちに自分のやりたいことが陶芸だったと気づきました。

Q. 作品にはボルネオで見聞きしたり、経験されたことが反映されていますか？

A. はい、一年中夏ですから、開放感、晴れやかな気持ち、明るさを感じました。

Q. 作品はどちらで拝見できますか？

A. おおたかの森「BHAN & FOREST」の隣りにギャラリーがあり、そこでご覧いただけます。

A. もう一つ申し上げたいのは女性の社会進出です。学生の頃から女性も仕事を持つべきだと強く思っていました。陶芸家としての仕事もそうですし、PTA、ロータリークラブ、商工会議所でも仕事を経験し、この度会頭にさせていただきました。大変光栄です。女性も仕事ができるということをご理解いただき、女性の皆様と一緒に頑張っていきたいと思います。

Q. 商工会議所では役員を歴任されていましたね？

A. はい、商工会議所が10年前にできた時からです。最初に常議員を3期(9年)、それから副会頭をいたしました。1期目に常議員をした時は、女性は二人でした。

Q. 流山は人が増えているので女性が活躍できる場も増えるといいですね？

A. (日本全体の)人口が減少する中、女性も社会での役割を担わなければなりません。日本は世界に比べても遅れています。私が会頭の任期中に流山で女性の活躍の場が少しでも増えればと思います。

Q. 先日の商工会議所の賀詞交歓会で、ご自身の陶芸家としてのクリエイティブな感覚を会議所の仕事に活かしていきたい、という挨拶を興味深くお聞きしました。

A. 日本の全515商工会議所中、女性の会頭は3人です。(亀山専務理事談)

Q. なおかつ芸術家となるとお一人でしょう？

A. 異色です。でも父が銀行員だったので実業家と間近に接しました。経済やビジネス書もよく読みました。

Q. ご自身の中では両方のセンスが自然にミックスされているのでしょうか？

A. 今世界で事業を起こそうとしている人に必要なのは芸術性です。ビジネスはクリエイティブです。

Q. どのようなところに流山の魅力を感じていますか？

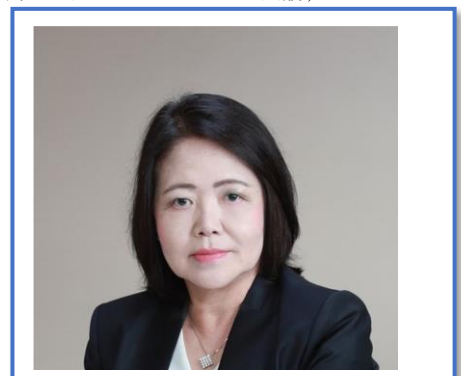
A. 38年前に東京から移りました。当時は田園でした。今のおおたかの森を中心とした開発は目を見張ります。その変化を楽しく見えています。

Q. NIFAの法人会員様として私どもへのご意見、何か一緒にできるアイデアなどお持ちでしたらお聞かせください。

A. 例えば、外国からの来訪客が市内の飲食店に入ったとき、外国語のメニューがあると分かり易いのでは、という話もあり、準備の段には助力の相談ができればと思います。(亀山専務理事談)

♥ 貴重な時間、お話しありがとうございました。

(2020年1月10日インタビュー西山勝)



流山に広がる「オランダ教室」

～ 2019年12月13日 流山南高校にて ～

2017年に市内の小学校で始まった「オランダ教室」も3年になり、既に4千5百人の生徒たちがニフュス・ヨスさんの授業を受けました。その間、中学校やキックマンアリーナの職員の方にも教室が設けられ、そして高校にも広がりました。

同校は、オリンピック・パラリンピック教育推進校としてグローバルプロジェクトを立ち上げ、その一環として「オランダについて学ぶ」機会を設けたものです。

一年生、約320名の生徒の皆さんを前に、ヨスさんが講演を始めます。オランダの位置、広さ、人口、風車を使った排水、花の栽培、農業、国名の意味(ネーデルラント＝低い土地)、治水、その技術力を請われてムルデルが利根運河を設計、監督したこと、アムステルダム街の成り立ち・発展と運河による治水、日本語になったオランダ語、王室、絵画、スポーツ、料理に至るまで、さしずめ「オランダ概論」を聞いているよう。

この「教室」ではヨスさんの質問に、各自答えを「Ja」又は「Nee」で回答用紙に書き込んでいきます。さてどのくらい正解があったでしょうか？国の広さ(日本と比べて)、国旗(ロシア、フランスとの違い)など難しかったかもしれません。

2学期の期末試験を終えたばかりの皆さんには、リラックスした授業になったことでしょう。



わずかでも、身近な異文化体験が心にのこれば

2月5日 流山小学校にて「国際交流会」

今年も3年生の皆さんは、この日の授業を楽しみに待っていてくれました。教室には手作りの国旗や花が飾られています。NIFAはジャメイン水澤さん(アメリカ)、ウィナンティ・アッピゲリさん(インドネシア)、ロナ雨沼さん(フィリピン)、李明勲さん(台湾)に講師をお願いしました。講師は自国を紹介、生徒の皆さんは2つの国を選んで教室を移動します。

授業では、お正月の習慣や遊び、タピオカの国といった紹介(台湾)、「タツキャン」という小さな羽根つきの羽を蹴り合う遊びや、弾むビー玉大のボールや蛍光色の小玉を使った「ジャックストーン」という遊びの体験や、学校での生活の紹介(フィリピン)、食べ物や、ジャンケン遊びの紹介や現地語の言葉の紹介(インドネシア)、州の形がウサギに似ているといった地理上の紹介(ミシガン州)などに、質問もたくさん、予定の時間を超えるほどでした。

『国による違いがわかってよかった』とか、初めて聞いたり、体験したことが印象に残った様子。



最後に生徒の皆さんが私たちに披露してくれた歌の詞に「世界が一つになるまでは ずっと手をつないでいよう」という一節があり、一生懸命声を合わせた姿と共に、心に強く響きました。講師の皆様ありがとうございました。

この秋 NIFA は、創立 30 周年、NPO 化 10 周年を記念し、式典を開きます

- 2020年10月3日(土)
- スターツおおたかの森ホール
- 9:30 式典
- 10:10 講演会
- 12:30 レセプション

- ✧ 式典には関係各位をお招きし、創立を祝います。
- ✧ 講演会は、私たちと外国出身の方が共に暮らしやすいコミュニティをつくるために、災害時の助け合いの事例などを紹介しながら、何ができるかを考える内容で準備中です。広く会員以外の方にもご案内します。
- ✧ レセプションは関係各位、会員相互の交流の機会とします。
会員の皆様、当日の予定を手帳に書き込んでおいてください。

クリスマスには子供の夢も世界に広がります

～「英語でクリスマス」(エルズ主催)2019年12月15日～

部屋にはツリーが飾られ、「ジングルベル」が流れ、講師やスタッフも真っ赤な帽子をかぶり、ここはすっかりクリスマスです。子供たちを迎えて「英語でクリスマス」のイベント。NIFAは6人の外国人会員の皆さんに協力いただき、講師役を勤めました。

まず講師の自己紹介から。子供たちはその都度「What is your name?」「Where are you from?」と繰り返すので自然に覚えます。「福笑い」では、チームメイトが目隠した子供に、顔のパーツを置く位置を「Up」「Down」「Right」「Left」と指示します。「神経衰弱」では国旗カードと国を象徴する絵や写真のあるカードを合わせます。そして講師から、「切り分けたプディングにコインが入っていれば当たり、お小遣いです。(イギリス)」「豚の丸焼きをいただきます。(フィリピン)」「サンタにクッキーを贈ります。(アメリカ)」などお国の面白い習慣をお話してもらいました。

おしめいは講師を囲んでおしゃべりタイム。おやつを食べながら、親子一緒に車座になり、英語、日本語を交えて楽しい会話の輪がいくつもできます。

こうした遊びを通じて、子供たちは互いの共通点や違いを自然に分ち合う空気が生まれるのでは、と感じます。

ウィナンティ・アツビゲリさん(インドネシア)、ロナ雨沼さん(フィリピン)、エレナ上村さん(ラトビア)、エミリー・ジョーンズさん(アメリカ)、ジョエル・チャドレイさん(イギリス)、陳璇さん(中国)、以上の皆さんに講師をお願いしました。ありがとうございます。



講師と受講生の努力がお国の料理で大きな笑顔になります

～日本語講座「お楽しみ会」2019年12月11日～



毎年恒例になっている日本語講座のイベント。始まる頃には用意したテーブルに、持ち寄った料理やお菓子が所狭しと並びます。色どり、盛り付け、香りが賑やかです。それらを珍しそうにみんながのぞき込み、「何て言う料理?」「どうやって作るの?」と興味津々。中には朝5時頃から起きて丹精込めて作ってくれた人も。

会が始まると、どの料理からいただくかとみんなテーブルを取り囲みます。そして歓談の輪が沢山生まれます。今年はいつにも増して大勢の受講生が参加しました。それだけ地域が広がります。さながら小さな地球村のようです。

今年は、担任の講師が生徒の皆さん一人一人を表彰しました。日本語検定を目指す人、漢字を習い覚える人、子供を預けて学びに来る人、仕事や勉強をやりくりしてくる人等々、それぞれの努力の様子と講師との結びつきが、表彰状の短い文に結実しています。表彰後の生徒の皆さんのスピーチにも心が動かされます。それぞれの努力が満面の笑顔になって、その場を包みます。一年の締めくくりにあふさわしいひと時でした。

料理作りは共通語になります

～ホームステイ事業部と東京大学院生との交流会～

2019年も終わりにさしかかった12月1日、初石公民館にて料理作りによる交流会を開催。

今回の料理は「おにぎらず」、「かき玉汁」の二品。慣れない三角巾とエプロンを着るのに手間取りながらも互いに手を差し伸べ、皆さんにこやかな雰囲気での調理が始まりました。

参加したのはアメリカ、スペイン、ロシア、インド、フランス、中国出身の皆さん、そして日本と、言語も文化も異なる人たちが同じ料理を作りながら、一体感を生み出していました。

また、「料理」は共通言語になり得るもの、皆さん、楽しくコミュニケーションをしていました。それぞれのバックグラウンドは違っても、共通するものがあれば多少のカルチャーバリアは何とかなるものと、あらためて感じました。

今回は初めての企画。「日本の文化に触れるよい機会」「周りの人から日本語を学んだ」「料理がおいしかった」等の感想が寄せられ、次につなげることができました。





♪ 暮らしやすいコミュニティの一助に ♪



外国語支援事業部は、**流山市の便利帳を多言語に翻訳**しています。

そのほんの一部を紹介します。詳しい内容はNIFAの外国語支援事業部のホームページをご覧ください。

外国語支援事業部翻译流山市便利书各种各种语言。如果你想了解详细内容，请看外国語支援事業部网页。

- 请将垃圾分类，放入能确认里面东西的透明或半透明的口袋里。
- 关于垃圾收集场所的各种规定、请向邻居询问。请注意保持收集场所的清洁、并与邻居友好合作。
- ☆ ごみは分別して、透明または半透明の中身が確認できる袋に入れてください。
- ☆ お使いになるステーションやそのステーションのルールはご近所の方に聞いていただき、トラブルの無いように仲良く清潔にお使いください。
- 可燃垃圾(每周两次)：厨房垃圾、木製品、不可再利用的废纸类・脏的布类
- ☆ 燃やすごみ(毎週2回)：台所のごみ、木製品、資源にならない紙くず・汚れた布類
- 不可燃垃圾(毎月两次)：玻璃製品、陶瓷製品、皮革製品、橡胶製品
- ☆ 燃やさないごみ(毎月2回)：ガラス製品、陶磁器製品、革製品、ゴム製品



ベルギー、オランダの歴史、食、美に惹かれて

～ホームステイ事業部 小澤弥佐子さん～

昨年5月10日から8日間ベルギー、オランダへ行ってきました。今年は流山市がオランダのキャンプ地と言うことでまさにタイムリーな感じですが、私にとっては10年越しの希望が叶った旅行でした。

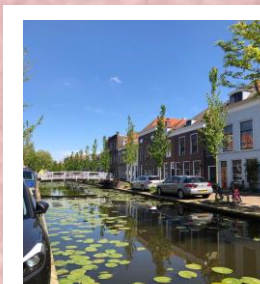
この旅行で特に期待していた所は、ベルギーの世界一小さな城塞都市で美食の街デュルビュイ。どこを見ても本当に絵になるとてもかわいい街でした。また世界中からこの街で食事をするために観光客が集まってくるそうです。次にディナンと言う街。サクスを作ったアドルフ・サクスの誕生の地です。カラフルなサクスのモニュメントが街に飾ってありました。お土産屋さんではいろいろな形をしたクックドゥディナンという硬いクッキーが売られていました。その昔騎士が戦地に携帯食として持って行き、コーヒーなど飲み物に浸して食べたそうです。



オランダでの楽しみと言えば、もちろんゴッホやフェルメールの絵画鑑賞。絵のすぐ前でゆっくりと鑑賞できるのです。至福の時でした。日本ではまず無理な話ですね。

それにチューリップ。残念ながら畑の花は全部刈り取られていましたが、キューケンホフ公園はチューリップをはじめいろんな花が咲き誇っていました。あまりに花々がみごとなので皆が感嘆の声をあげるほど。どの季節に行ってもきれいに花が咲いているように手入れされているそうです。

旅行最終日アムステルダムではサッカーの試合があるということで車の乗り入れも制限され、多くのサポーターたちがユニフォームを着て、チームの旗を振りながら試合会場へ向かっていました。私が最初にホームステイを受け入れたのは中国系オランダ人でライデン大学の女子学生でした。



サッカー観戦が好きな夫がサッカーの話をすると、「私はサッカーが嫌いだ」と言っていました。理由は乱闘騒ぎが起きるからでした。私は彼らを見て彼女の言葉を思い出し、どうかサポーターたちが熱くなりすぎませんようにと祈りながらバスに乗って飛行場へ向かいました。

【お詫びと訂正】2019年12月1日発行の当誌4ページに掲載した「ホームステイで日本の秋を体感」の記事中、以下の誤りがありました。関係各位にお詫び申し上げ、訂正いたします。

- ・ (誤) (I' M Japan) ⇒ (正) (IM Japan) ・ (誤) (交財) ⇒ (正) (公財)
- ・ (誤) 日本の技能、技術を学ぶ目的 ⇒ (正) 日本との親善交流の目的

写真:

上:「クックドゥディナン」

下左:デュルビュイの街角

下右:デルフトの街(オランダ)